

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
231BZ06	交通文化論ゼミ	交通と文化・生活の関係を研究する	濱 雄亮	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	近代史・生活史・現地調査・交通と文化		
ディプロマポリシーとの対応	3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	特になし				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道や各種の交通機関は、様々な形で人々の生活に変化をもたらしましたし、今ももたらし続けています。交通と文化・生活の関係のあり方も、常に変化しています。こうした変化や現状を、各自が収集した具体的なデータに基づいて丁寧に分析することで、鉄道・交通と生活の関係・変化に関するより良い論文作成を行います。現状については、現地調査を推奨します。				
到達目標	交通と文化・生活の関係やその変化を理解するために必要となるデータを見極めて収集することや現地調査ができること、収集したデータの分析と書籍などから得た知見に基づいて仮説が立てられること、仮説を教員・他の学生に対して説明できること、教員・他の学生からの質問・助言に基づいて仮説をよりよいものにしていけることを目指します。				
講義内容	前期は主に鉄道を中心とした交通と文化・生活の影響関係についての書籍・論文や現地調査のための文献の「輪読」を行います（2023年度は『行商列車』を読みました。2024年度は学生の興味に応じた文献を割り当てました。）。また、情報検索方法をはじめとした技法の習得のための講義や実習を行います。後期は主に卒業論文作成指導と「発表」を行います。これらを通して、課題設定能力・リサーチ能力・文章表現能力・プレゼンテーション能力を向上させます。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期・通年の流れの説明、各自の興味の発表		
	第2講	文献講読と議論(1)	交通と文化の関係についての文献を読む		
	第3講	文献講読と議論(2)	交通と生活の関係についての文献を読む		
	第4講	文献講読と議論(3)	現地調査の方法についての文献を読む		
	第5講	文献講読と議論(4)	現地調査に基づいた文献を読む		
	第6講	文献講読と議論(5)	2023年度学生論文集を読む		
	第7講	文献講読と議論(6)	2024年度学生論文集を読む		
	第8講	情報検索の方法	自分の関心に沿った文献・ウェブサイトの検索方法の講義		
	第9講	情報検索の実習	自分の関心に沿った文献・ウェブサイトの検索方法の実習		
	第10講	社史の輪読と議論	社史の探し方と読み方の講義と社史を読む		
	第11講	自治体史の輪読と議論	自治体史の探し方と読み方の講義と自治体史を読む		
	第12講	合宿地の歴史と現状(1)	合宿地の歴史を社史・自治体史に基づいて把握する		
	第13講	合宿地の歴史と現状(2)	合宿地の現状を文献・ウェブサイトに基づいて把握する		
	第14講	卒業論文構想発表と議論(1)	卒業論文の対象事例の発表		
第15講	卒業論文構想発表と議論(2)	夏休み中の卒業論文の課題を明確にする			

第16講	後期オリエンテーション	後期の流れの説明、夏休み中の進捗を報告する
第17講	夏休み中の成果報告	夏休み中の進捗を報告する
第18講	論文作成指導(1)	序論における問いの設定方法について
第19講	論文執筆状況報告と議論(1)	序論における問いを立てる
第20講	論文作成指導(2)	先行研究の検討方法について
第21講	論文執筆状況報告と議論(2)	先行研究を検討する
第22講	論文作成指導(3)	本論における現地調査データの提示方法について
第23講	論文執筆状況報告と議論(3)	本論における現地調査データを提示する
第24講	論文作成指導(4)	本論における分析の提示方法について
第25講	論文執筆状況報告と議論(4)	本論における分析を提示する
第26講	論文中間報告会(1)	論文の全体像の発表（前半の学生）
第27講	論文中間報告会(2)	論文の全体像の発表（後半の学生）
第28講	論文作成指導(5)	形式・書式の整え方について
第29講	論文執筆状況報告と議論(5)	形式・書式を整える
第30講	卒業論文発表会	卒業論文の問いと結論を発表する
指導方法	前期は文献の「講読」、後期は論文作成指導と「発表」が中心です。「発表」は、その時点までの卒業論文の執筆状況を報告して課題を明確にするものです。後期には卒業論文の全文提出を複数回課します。コメントを入れて返却しますのでその後の執筆に生かしてください。出欠は提出物の提出をもって確認する回が多いです。	
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
成績評価方法	平常点（発表・発言・卒業論文の途中での提出状況）：40%、卒業論文：60%。	
課題（試験・レポート）に対する フィードバックの方法	後期に課す全文提出に対してコメントを返します。	
テキスト	用いません。紙もしくはpdfの資料を配付します。	
参考文献	老川慶喜『日本鉄道史』幕末・明治篇、大正・昭和戦前篇、昭和戦後・平成篇、中央公論新社、2014-19年。今和次郎・藤森照信『考現学入門』筑摩書房、1987年。菅原和孝〔編〕『フィールドワークへの挑戦―“実践”人類学入門』世界思想社、2006年など。	
実務家教員による授業	教員 経歴	
特記事項	新しく入手した資料や社会情勢や学生の執筆進捗状況によって順番や内容を一部変更する場合があります。	